

平成24年
9月号

桂台地域ケアプラザ

地域交流プログラム

発行日/平成24年9月1日
編集・発行/横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者/石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katsuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

今年の2月にお知らせした医療的ケアの必要な方のための施設「多機能型拠点^{さと}郷」がオープンします。桂台中学校正門の前に建つ、赤い瓦屋根のこの建物に「何ができるのだろうか？」と興味をもたれる方も多いようです。

思えば（と言っても、語り継がれているお話しの中で聞いたことですが）朋ができた時は、当時の自治会から建設に対する反対意見もあり、当時の施設長は針のむしろの心境だったそうですが、建設説明会の時に一人のご婦人が「どんどんこの街に出てきて私たちと仲良くなりましょう」と呼びかけてくださり、会場が拍手に包まれ、それまでの反対の機運が変わったそうです。

それから桂台にも27年の月日が過ぎ、この施設にはどんな方たちが通われるのだろうか？と、今から楽しみにして下さる方もいるくらい、地域の方の意識は変化しています。この事は、今でも福祉施設ができると反対の声が上がるような土地では考えにくいことなのかもしれません。人と人が関係を深める結ぶ道は、たえず顔を合わせ、声をかけあい、喜びあったり、心配し合ったり、励まし合ったりする事こそ唯一の道だと改めて思います。「どんどんこの街に出てきて私たちと仲良くなりましょう」という言葉は、今につながる宝物のような言葉だと思います。

先日、郷の看護師になる箱石さんとお会いし色々とお話をしていたら、「とにかく郷ができたら、たくさんの方たちに自由に来てほしい。そして、みんなと仲良くなってほしい」と言っていました。もしかしたら、通ってくるみんなにとっては、郷に来る事がひとつの冒険であり、大きな出来事かもしれません。ちょっと、郷が気になる方、立ち寄ってみたいと考えている方、ボランティアなどやってみたいという方がいらっしゃいましたら、まずは郷にご連絡ください、そして、通ってくるみんなと仲良くなってください。

9月の おしらせ



◆親子のふれあいタイム◆

♪ 音・あ・そ・び ♪

～珍しい楽器を手に
歌っておどろろ～

おもしろい音色に
びっくり…
お楽しみに！



日 時：9月26日(水)

11:00～12:00

講 師：音楽インストラクター
大塚裕子さん

募 集：未就学児の親子 15組
(定員次第締切)

申込み：桂台地域ケアプラザへ
TEL 897-1111

平成24年度 栄区内6地域ケアプラザ共催事業

若年性認知症・栄区のつどい

ご本人とご家族のつどいをおこないます。ご家族同士で、日頃の思いやお困りのことなど、お茶を飲みながらいろいろなことを話し合いましょう。ご本人は、昼食の買物や近隣への散歩、音楽鑑賞など楽しんでいただく予定です。(スタッフがサポートします)ぜひ、お気軽にご参加ください。お待ちしております。

日 時：10月14日(日) 11:00～15:00

会 場：小菅ヶ谷地域ケアプラザ

対 象：認知症を65歳未満で発症した
70歳位までの方とご家族

参加費：お一人あたりお茶代200円(昼食代は実費負担)

申込み：お電話又は、桂台地域ケアプラザへ直接お申込み下さい



桂台スペシャルデイの お知らせ

桂台地域ケアプラザデイサービスでは、利用者さんへ日頃の感謝を込めて、月に一回「桂台スペシャルデイ」を企画しています。毎月毎月素敵なプログラムを企画していますので、地域の皆様も是非、足をお運び下さい。ご希望の方は、桂台地域ケアプラザまでご連絡下さい。

日時：10月13日(土) 14:00～15:00

内容：大塚彩さんコンサート

場所：桂台地域ケアプラザデイルーム

シンガーソングライターの大塚彩さんにお越し頂きます。素晴らしい歌声をお楽しみください！

どんなに重い障害があっても 普通に暮らせる街に

～多機能型拠点「郷」^{さと} 10月に開所～

横浜市では医療的ケアを必要とする重症心身障害児者等とその家族が身近な地域で安心して生活できるようにと、市内6箇所に「多機能型拠点」の整備が進められています。そして、ここ栄区桂台に第一号となる「多機能型拠点 郷」^{さと}が誕生します。今回の特集では、「郷」^{さと}の開所に向けて、準備室の諫山さん、箱石さんそして生田目施設長にお話を伺いました。

多機能型拠点が
できた背景を
教えてください。

横浜市には自宅で生活している重症心身障害児者の方が800名ほどいます。またそのほとんどの方が、医療的ケアを必要としている現状があります。一方、在宅生活を継続するために必要なサービス（医療的なケアを伴った日中の活動場所や家族のレスパイトのための短期入所施設など）は不足しています。そこで、横浜市では将来にわたる「あんしん」につながる支援を構築する施策の一つとして医療的ケアを必要とする障害児者のためのさまざまな機能をもった「多機能型拠点」の整備を考えました。

医療的ケアとは、経管栄養や痰吸引などの行為を指します。この医療的ケアは、重症心身障害児者の方にとって生活行為として不可欠なものです。これまで施設では看護師等の医療従事者、自宅では家族の方しか行えませんでした。とはいえ、医療職のいない養護学校などでは必要に応じて医療的ケアを行っているのが半ば現状でした。しかし、今年4月によりやく法制度が現状に追いつき、法に基づいた研修を終えた福祉職（支援スタッフ、ケアワーカー等）も、医師の指示や家族の確認のもとに必要なケアができるようになりました。郷における支援スタッフによる医療的ケアの取り組みは、利用する皆さまを受け入れる要になります。

「医療的ケア」が必要な
重症心身障害児者の
サポートを行うと
ありますが、
「医療的ケア」とは
具体的にどのような
ことを指しますか？

利用者の対象や
サービス提供
エリアはどこに
なりますか？

利用対象となる方は、医療的ケアが必要な方、そして、年齢は幅広く乳幼児から（3歳のお子さんに関する利用のお問い合わせもありました）成人の方（高齢者については対象ではありません）まで、地区は概ね栄区・戸塚区・港南区にお住まいの方が対象になります

さと
「郷」という
名前がついた
由来を教えてください。

昭和61年に、重症心身障害者の方の活動の場（＝青春の舞台）である「朋」が開所されたことは、ご家族や支援スタッフにとっての長年の夢がかなう画期的な事でした。しかし、みんなの生活を支える家族が病気で一時的に介護を担えなくなったり、冠婚葬祭などの社会的な理由で一人残さなければいけない場合など短期的に介護ができない場合の事が課題でした。また、時にはご家族のレスパイトケア（リフレッシュの為の介護支援）も必要です。そこで、「朋」利用者のご家族たちは、一軒家を借りてご家族同士で、夜間の「預け合い」をする活動を始めました。その時のお家の名前が「朋の郷」です。その後、サポートセンター「径」が開所され、横浜市の事業として短期入所（宿泊サービス）を行う事になり、「朋の郷」は発展的解消となりましたが、ご家族が始めた「朋の郷」の功績は生活支援のシンボルとして今も語り継がれており、その一字を新しい拠点にいただきました。

郷には診療所の機能もあります。利用者の健康管理は、郷に勤務する医師が対応します。夜間帯は、当直者が看護師に連絡し、指示を受けて対応します。もちろん、利用者の皆さまの主治医と密接な連携を取りながらの支援になります。

多機能拠点において、
主治医および医療機関との
連携はどのような形で
進んでいくのでしょうか？

最後に地域の
皆さまへ向けて
メッセージを
お願いします。

郷では様々な事業を行う予定ですが、まず短期入所（宿泊サービス）から開始します。定員は、1日4名（内緊急枠1名）、1回の利用は、1～2泊程度を予定しています。横浜市では、地域活動ホームの整備に伴い、短期入所サービスは増えましたが、医療的ケアの必要な方を受け入れる施設が少ない事が課題でした。多機能拠点「郷」の開所は、「朋」やご家族が始めた「朋の郷」の願いにつながり、重い障害があっても、「地域で普通に暮らしていく」ことを実現する事にあります。これから、短期入所、診療所だけではなく、日中一時支援、訪問看護、居宅介護、相談など様々な事業を展開していきますが、その真ん中にはいつも利用する本人の思いがあり、隣にいるご家族をも一緒に支えるためにチームワーク良く進んでいきたいと思っています。



内覧会のご案内

日時：9月20日(木) 11:00～14:30

場所：多機能型拠点「郷」

(住所：栄区桂台中2-1)

地域の皆様のお越しをお待ちしております。



お問い合わせは、
社会福祉法人 訪問の家
多機能型拠点「郷」準備室
電話：045-894-6611
(9/6まで)

多機能型拠点「郷」
電話：045-443-7666
(9/7から)

担当：諫山・箱石



諫山さん(左) 生田目施設長(中)
箱石さん(右)

～子育てをあたたく応援するコミュニティへ～

少子高齢化の進む栄区には、数年前からそれぞれの特性を持った子育てサロンが活発な活動を展開しています。実家に帰ってきたような温もりのある雰囲気の中、お袋の味ともいえる“カレーライス”を提供してくれるサロン、ファーストフードの味に慣れた親子に「食育」の大切さを知ってもらおうと手づくりの一品を提供しているサロン、親子遊びや親子のくつろぎの場を提供するサロンetc…

子育ての大先輩方が熱心にボランティアとしてサロン運営に関わってくれています。

さらに昨年からは、子育て支援拠点「にこりんく」が“おやこの居場所”として開設され、多角的な子育て支援の取組みを始めています。

身近な地域での子育て支援が進み、友だちどうしでサロンを上手に活用する親が増えてきた一方、核家族化・晩婚化・情報の氾濫などライフスタイルの変化にともなって、養育者が子育てに強い不安を感じたり、教科書通りにはいかない子育てへの戸惑い、あるいは、子どもへの接し方がわからずストレスを溜めてしまうなどの状況がみられることがあります。また近くに相談できる人がいなかったり、外出が困難などの理由から、ひとりで大変な子育てを頑張っている方もいます。深刻な場合は、子どもの前でDV（ドメスティックバイオレンス）が行われるケースもあり、子どもへの影響も懸念されます。

そんな中、子育てを頑張っている養育者へ、少しでも楽しく育児が出来るよう、多くの家庭へ地域でも子育てを応援できるような地域の役割が求められてきています。

栄区福祉保健センターこども家庭障害支援課の瀬戸係長からうかがったお話では、横浜市の児童相談所での23年度児童虐待新規把握件数の中で、「身体的虐待」が約4割、「心理的虐待」や「保護の怠慢・拒否」がそれぞれ約3割を占めるようになり、特に「心理的虐待」においては前年より117件も増加したということです。

「子育ては昔から母親がやってきた当たり前前仕事」「こどもが言う事を聞かないのは親のしつけができていないから」といった周囲の方の言葉を聞くこともありますが、不慣れな育児でうまくいかないのは当たり前のことでもあります。わからないことを気軽に聞けたり、子育て中の親の思いを聞いて理解してもらえたり、「それでいいのよ」と背中を押してもらえそうな人が身近な地域にいと、養育者も心強く、安心して子育てができるようになると思います。

横浜市では平成20年度から、生後4か月までの赤ちゃんのいる全家庭を対象に「こんにちは赤ちゃん訪問事業」が行われています。地域で活動する主任児童委員・民生委員等の方々こんにちは赤ちゃん訪問員として訪問し、「おめでとう」と赤ちゃんをあたたく地域に迎える気持ちを伝え、子育て支援に関する情報の提供を介して顔見知りになり、相談の窓口となるよう期待されています。身近な地域の方が養育者の話に耳を傾けて、母の置かれた状況を理解し、地域のネットワークにつなげて応援する重要な役割を果たしています。

栄区では“こどもを安心して産み育てられ、こどもが健全で健康に成長できるまち”を目標にセーフコミュニティの推進が行われています。その担当の木村係長によると、地域全体で考えて行かねばならないことは、頑張っている母に“よくやっているよ”の声掛けと、優しい気持ちで見守る姿勢だと言えます。子育て世代への理解を深め、大変ながらも楽しく子育てできるように、地域で支えることが大切です。

これからの未来を創るのは子育て世代とその子ども達の若い力です。安心して子どもを産み育てる環境づくり・街づくりをめざしコミュニティのつながりを深めていきたいものです。

当ケアプラザでもそのお役に立てるよう、子育て中の方にも気軽に利用してもらい、地域のネットワークを広げていくための楽しいイベントなど、さらに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

子育て講演会&ミニコンサート



日時：10月6日(土) 13:30~16:00

場所：栄公会堂 ホール

対象：子育て中のパパ・ママ、栄区内にお住まいの方

内容：「オヤジの子育て奮闘記～地域の中で共に育つ～」

講師：佐々木常夫氏

ミニコンサート 出演：tomoko(シンガーソングライター)

その他：①当日は2～6歳のお子様の保育を行います。無料。

事前申し込みが必要。9月11日(火)から先着30名。

こども家庭係TEL:894-8410

②手話通訳ご希望の方は事前申し込みが必要。

9月25日(火)までにこども家庭障害支援課へ氏名、

連絡先を明記しFAXで。FAX:893-3083